



令和4年11月17日

令和4年度総合震災消防訓練を実施します

東京消防庁では、さらなる震災対応力の強化を図るため、管下全消防署において、**全消防職員1万8千人及び消防団員を動員**した大規模な総合震災消防訓練を実施します。

新型コロナウイルスの感染拡大、東京オリンピック2020大会の開催により、大規模な訓練の実施は3年ぶりとなります。東京都の被害想定が10年ぶりに見直されたことも踏まえ、今回の訓練を通して、今後、発生が懸念される首都直下地震に対する総合的な対応能力を強化します。

1 実施日時

令和4年11月26日（土）7時30分 から16時15分 まで

2 実施場所

東京消防庁管下全域

3 訓練想定

「令和4年11月26日（土）の朝、都心南部を震源とする地震が発生し、都内では最大震度7を記録、東京消防庁管内各所で大規模災害が多数発生する。」という想定です。

4 訓練内容

- (1) 非常招集命令伝達及び参集訓練
- (2) 初動措置訓練
- (3) 情報収集訓練
- (4) 通信運用訓練
- (5) 警防本部等運営訓練
- (6) 部隊編成訓練
- (7) 部隊運用訓練
- (8) 火災現場活動訓練（取材可能、詳細は別紙参照）
- (9) 救助・救急活動訓練

問合せ先

〔 東京消防庁(代) 03-3212-2111 〕
〔 広報課報道係 内線 2345～2350 〕

実動訓練の概要

- 1 実施日時
令和4年11月26日（土）7時30分から11時00分まで
- 2 実施場所（別図1参照）
江戸川区臨海町一丁目
- 3 参加人員
460名
（消防職員370名、消防団員80名、東京消防庁災害時支援ボランティア10名）
- 4 参加車両
消防部隊42隊（ポンプ車等24台、可搬ポンプ18台）
その他、消防団の可搬ポンプ7台（可搬ポンプ積載車3台）
- 5 訓練想定
 - (1) 江戸川区南葛西三丁目で複数発生した火災が合流火災となり、大規模に延焼拡大する。
 - (2) 大規模火災となり、消火栓のみの水量では対応が困難となる。
 - (3) 火災現場南側の避難場所に多くの避難者が避難しており、火勢が徐々に避難所へと接近している。
- 6 訓練の特色
 - (1) 実際の市街地を使用し、ホース延長車及び全地形活動車を活用した総延長距離7kmのホース延長による送水活動を実施します。
 - (2) 大量の消火用水が必要となることから、自然水利（新左近川）から特殊車両を活用した吸水を実施し、それぞれの仮想防火水槽（10t水槽）を經由し、最前線まで送水します。
 - (3) 避難場所への延焼を食い止めるために、消防部隊を集結し長時間の放水活動を実施します。
 - (4) この3年間で新たに配備した全地形活動車、ドローン及びタブレット（消防団）など、大規模災害に対応する車両や最新の配備機器を活用し、それぞれの特性を活かした訓練を実施します。
 - (5) 消防団と災害時支援ボランティアと連携した消防活動と情報収集を実施します。
 - (6) 今年度から東京消防庁管内の21消防署に配置した災害対策調整担当課長と連携した指揮運営を実施します。

7 当日の報道受付・説明について

8時30分から報道関係受付場所（別図2参照）で受付、**8時45分から同場所付近**で取材についての説明を実施します。

8 取材にあたっての注意事項

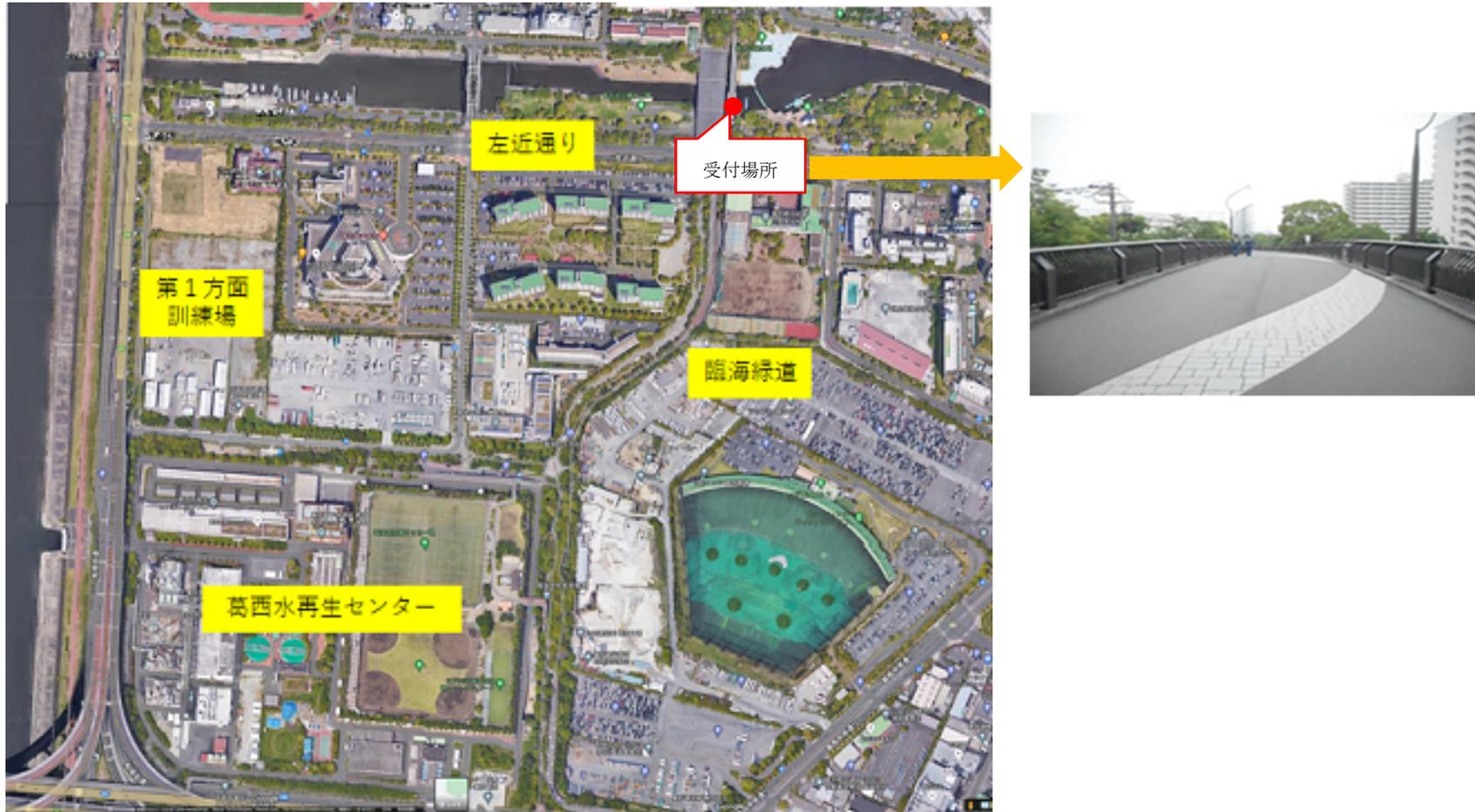
- (1) **取材を希望される場合は、11月22日（火）10時00分まで**に広報課報道係宛へ電話でご連絡ください（電話番号 03-3212-2111）。
- (2) 取材時は、**必ず自社腕章**を着用してください。また、訓練会場では安全管理のため、係員から指示があった場合は**必ず自社ヘルメットを着装**してください。
- (3) 取材中は、係員の指示に従い事故防止に十分注意してください。
- (4) 取材については、新型コロナウイルス感染症予防対策として、マスクの着用をお願いします。
- (5) 駐車場のご用意はありませんのであらかじめご了承ください。

別図1



別図2

歩道橋（かもめ橋）江戸川区臨海町2丁目付近



訓練実施概要図

ホース延長車でのホース延長



東日本大震災（気仙沼地区）

公道(左近通り)でホース延長車を走行させ、150mmホース(通常の火災で使用するホースの約2倍の太さ)の延長を約1km実施します。

吸水訓練



大量送水装置

遠距離大量送水装備（送水車）
スーパーポンパー



東日本大震災（気仙沼地区）

大量送水装置と遠距離大量送水装備を活用し、新左近川より吸水し150mmホースにて送水します。

大量送水装置：毎分5000L、遠距離大量送水装備：毎分最大8000L

放水訓練



様々な放水器具を活用した長時間の放水訓練を実施します。

ドローンによる情報収集



ドローンにより災害状況及び活動状況の把握を行います。



現場指揮所



東京消防庁

江戸川消防団

関係機関

現場指揮所では消防団及び関係機関と連携した指揮訓練を実施します。消防団とは、消防団に配備されたタブレットをもとに活動状況等の情報共有を、関係機関とは、各種の情報共有を図ります。

市街地を想定した遠距離送水訓練



阪神・淡路大震災

葛西水再生センター内を市街地と見立て、ホースの延長訓練を実施します。市街地での遠距離送水は、送水する側と送水される側が離れ相互に視認ができないため、活動が困難な状況にあります。本訓練により、相互の連携の習熟を図ります。

可搬ポンプによる遠距離送水訓練



東日本大震災（気仙沼地区）

全地形活動車

臨海緑道にて、ポンプ隊及び消防団により可搬ポンプを多数配置し、総延長距離7km遠距離送水訓練を実施します。走行困難かつ狭隘路となるため走破性能の高い全地形活動車を活用し可搬ポンプを搬送します。